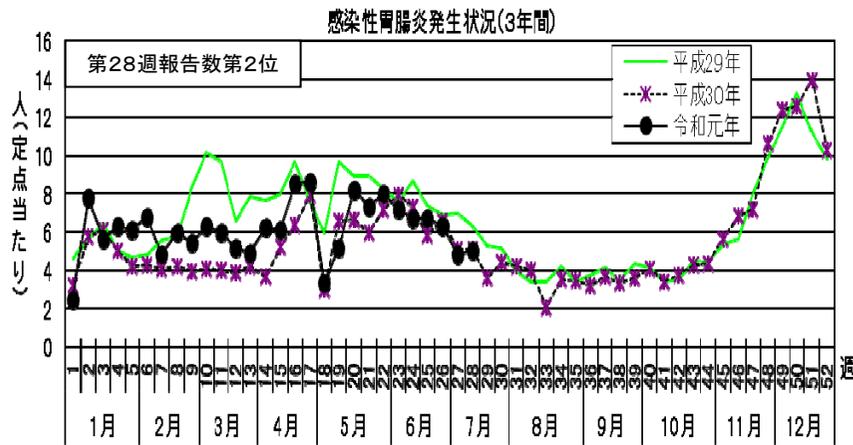
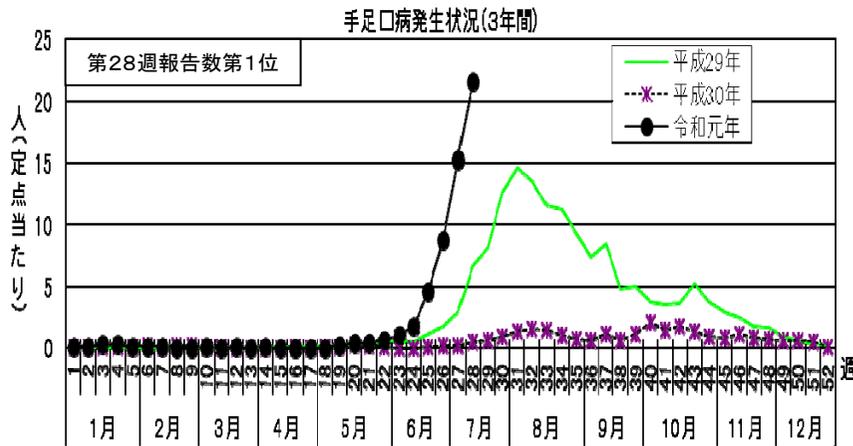


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年7月8日（月）～令和元年7月14日（日）〔令和元年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は21.58人と前週（15.27人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.03人と前週（4.84人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.58人と前週（3.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

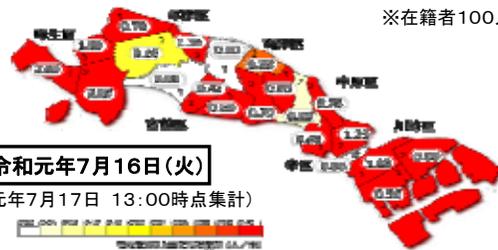


手足口病の患者報告数が過去最多に！

川崎市では、令和元年第28週（7月8日～7月14日）の定点当たり患者報告数が21.58人となり、現在の調査方法となった平成11年第14週以降、過去最多となりました。特に1～2歳の小児が全体の57.8%を占めており、市内の複数の保育園などでは集団発生事例も報告されています。

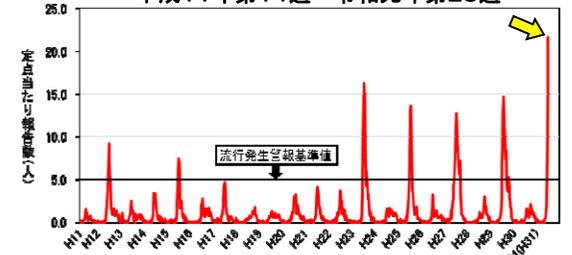
手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルスA群（CA）、エンテロウイルス71型など様々ですが、今年はCA6型が多く検出されており、大きな流行があった平成27年や平成29年と同様の傾向がみられます。

学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
 【手足口病と診断された保育園児等報告数※】



水疱性の発疹が多数みられ、水痘を疑う事例も報告されています。

川崎市における手足口病発生状況
 -平成11年第14週～令和元年第28週-



川崎市における年齢階級別手足口病発生状況
 -令和元年第28週-

